

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岐阜県山守市

●地域における現状・課題

- ・少子化の中でも、生徒がやってみたい活動に継続的に参加できる機会の確保（市内中学生人数：少子化の進行〈R5年615人→R15年370人〉）
- ・生徒が「楽しさや喜び」を感じ、自己実現する学びの機会の確保
- ・地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、生徒の多様な体験機会を確保

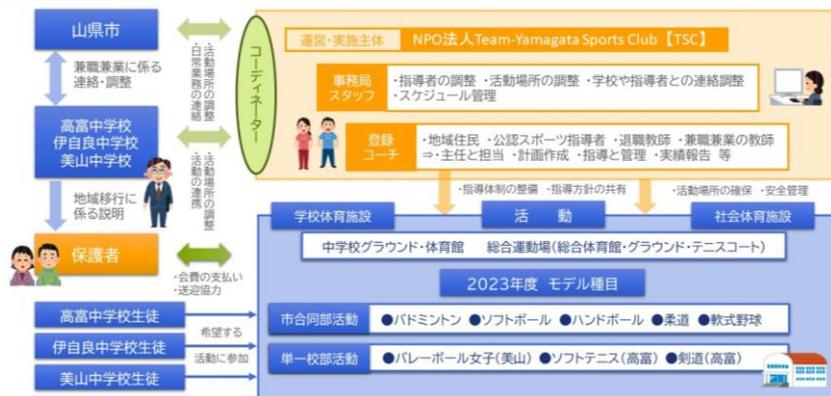
●取組事項の概要

・運営団体を、21年間の中学校との連携実績のある「NPO法人Team-yamagata Sports Club」に委託し、5年度はTSCと連携している8種目部を対象に指導體制、指導方法、顧問との連携等について実施検証を行った。そして、順次市全体に拡充していく計画である。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・8種目の休日地域部活動として実施したスクールAに、男子104人、女子70人、合計174人の中学生が参加した。（TSC入会中学生は254人）
- ・生徒の意識調査について、活動満足度(5段階)4.1、体力・技能向上度4.4、仲間関係4.4、指導満足度4.3であった。（TSC連携11種目について調査）
- ・顧問の意識調査について、負担軽減実感68%、TSC指導者への満足度(5段階)4.7であり、負担軽減や良好な移行と捉えられる。
- ・県主催研修会(3年間資格)に地域指導者44人が受講し、昨年度と合わせて50人が受講した。市研修会は全体1回、バレーボール2回実施し、研修を深めた。

●運営体制図



山守市立中学校部活動の地域移行プラン

〈目指す姿〉

- 少子化の中でも、生徒がやってみたい活動に継続的に参加できる機会の確保
- 生徒が「楽しさや喜び」を感じ、自己実現する学びの機会の確保
- 地域の持続可能で多様なスポーツ・芸術文化環境を一体的に整備し、生徒の多様な体験機会を確保

令和5年4月 山守市教育委員会

〈背景〉

- 少子化の進行(R5年615人→R15年370人)
- 生徒のコースの多様化

〈山守市の方針〉 学校部活動を地域ぐるみの部活動(地域部活動)に移行する

- 学校の枠を超えた部活動環境を整備する ⇒ 山守市合同部活動
- 地域移行の鍵を握る運営団体・地域指導者を確保し、体制を整備する ⇒ 運動系・文化系地域団体との連携
- 生徒の志向性に対応する「プラスONE」の活動環境を整備する ⇒ 競技・楽しみ・健康・体験等の志向性プログラム

国が示すスケジュール

	令和4年度	5	6	7	8
体制構築	が「ド」ライの改定				
改革推進期間		実証事業	段階的に地域移行を推進		
地域クラブ活動充実					が「ド」ライの見直し

山守市の運営団体・実施主体

- 運動系部活動は、総合型地域スポーツクラブ NPO法人 Team-yamagata Sports Club (TSC) に委託する。
- 文化系部活動は、まず地域指導者の確保を課題として取り組み、地域団体の協力を得て地域移行につなげる。

学校部活動の地域移行後の活動形態

平日		休日	
学校部活動	学校部活動	学校部活動	地域部活動

●地域クラブ活動の概要

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営団体：NPO法人Team-yamagata Sports Club
- (3) 種目：バレーボール、ハンドボール、剣道、バドミントン、柔道、ソフトテニス、ソフトボール、軟式野球
- (4) 指導者の主な属性：市内市外指導者、教諭
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4～5回（毎週土曜日）
- (6) 主な活動場所：社会体育施設・学校開放施設
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：6,000円/年
（3年:半期3,000円選択）
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円